

千坪神奈川公園は區有水面を道路工事の序に埋た處、面積は約八千坪孰れも平坦地で東京の公園と變りはない。

手前味噌は此の位で御免蒙る事として、例へば例の自動車道路所謂産業道路補助も今度こそは愈々物になるらしい誠に邦家の爲め嬉ばしい事を各府縣の路政上重大なる期待と覺悟を與へるもので、此れを活用する事に就ては内務當局に於ても慎重に考慮研究して貰ひたい。

茲に一陽來復潑刺たる御大典の新春を迎へた吾々は益々

緊張して奮勵せなければならぬと思つて居る、路政誌上にも久しく御無沙汰をしたが今年からは廻らぬ舌に動かぬ筆もかまわず時々惡まれ口でも叩いて見ようと思つて居る、そして共に共に我路政の爲めに幾分の貢獻でも出来れば結構な事である。何の腹案もなく唯だ出まかせを書き連ねた丈で新年號の記事としては甚だ恥しい次第だが藪から棒に頼まれた責ふせぎ迄で讀者諸君の御迷惑は何卒御許しを願ひたい。

## 四國と紀州の交通について

東京府立  
第六高等女學校長

丸山丈作

私は昭和二年十月に、昔の南海道を、ザット一めぐりした。この地方の交通は、わかりかねる所が少くない、それで、近くこの地方へ行かれる人のためにもと、少しくかいてみる。

東京から讃岐の高松へは、岡山、宇野を通れば東京を晩の七時半に立つて、翌日の午後二時二十分につかれる。高松

で見らるべき所は栗林公園と屋島である。時間のある人はさらに五剣山を見られるがよからう。之には電車の便がある。高松から坂出、丸龜を経て多度津につく。琴平神社に詣る人は、こゝから別れ、第十一師團司令部のある善通寺をへて琴平町につく。哩數五、時間は三十分。琴平からは自動車で阿波の池田に行き、そこから、高知へは自動車、徳島へは汽車がある。多度津にかへり、觀音寺、今治いまなぎをこぼり、松山まで行つて鐵道はつきる。松山から有名な道後温泉へは電車があつて、料金は五錢。湯はきれいで、設備もよくとても有馬温泉のたぐゐではない。

松山から大洲おほす、宇和島へは自動車がある。宇和島からは吉野まで汽車があり、之れから四萬十よんまじ(渡)川の谷を通つて高知縣の中村にいで、それより須崎に行けば、汽車がある。私ははじめ、この道を通るつもりであつたが、松山でしらべて見るに、道があまりにこぼく、自動車の發着もあてにならぬので、こゝでも宇和島で學校を見ては、二日て須崎まで行かれぬ。それで行程をかへて、すぐに高知縣の佐川

に行くことにした。

松山から佐川までは二十八里、自動車が通う。松山をでて平地をはしるこゝ二里ばかり、それから三坂峠をのぼるこゝ四里ばかり、峠を少し下れば久萬町ひさま。こゝから近頃名高くなつた勝景の溪流に入るのである。

久萬町からは仁淀川の溪流に沿つて下りに下り、谷はひろくなり、川は大きくなつて、つひに佐川町につく。仁淀の溪流は激流をなし、岩奇にして、自動車よりの眺め、はなはだ美しい。

佐川は須崎から九哩一分、高知まで十七哩二分。田中光顯伯の出られた所である。

高知市から浦戸灣をへて、名高い桂濱へは三里、一日數回モーターボートが出る。新八景室戸崎へは高知市から自動車で四時間、私は室戸へ行かれなかつた。室戸には榕樹があるといふので、もてはやされるが、浦戸神社の前にも一本四尺位まわりのが生えて居る。

高知から阿波池田へは二十二里、自動車が通う。高知を

でて少しく平地をすれば、坂道になる。吉野川はその上流から、水清く岩もおもしろい。大歩危小歩危は最も名高い所であるが、此の河はどこでも美しい。池田から徳島までは汽車。

私は和歌山へ行くのであるが、徳島から紀州へすぐに船がゆくかゆかぬか。これは東京でわからず、宇野ではゆくま聞き、高松で多くの知人にたづねたが、またわからぬ。いよゝゝ徳島に來てたづねるま、ないまわかつた。徳島から撫養へは自動車で一時間、汽車もあるが、徳島驛からすぐでないので不便だ。撫養から岡田へも自動車。岡田から福良へモーターボートが出る。大阪通いの船もでる。撫養まで來てさらに徳島にひきかへし、小松島に至つて汽船にのるまごまは、東京に居た時の粗放の考。

福良は、灣内ひろく、完全に波風をへだてた、いゝ港である。こゝから洲本へ自動車で一時間、汽車も通つて居る。

洲本からは、和歌山の少し北の淡輪へ船がでる。和歌山へ行くにはこれによるのがいゝ。大阪へまわつては時ま金

この損。和歌山から湯淺まで二十五哩の鐵道がある。いわゆる紀西鐵道で、御坊田邊をへて勝浦で、新宮鐵道に接続し、さらに木本、尾鷲をへて、伊勢の相可口から、伊勢柏崎まで來て居る。紀伊東線と接続する計劃で、今兩方から工事をすゝめて居る。

湯淺から先は、まだ汽車がないので自動車、御坊から勝浦へは自動車も通うが、大阪商船の大きな美しい新造船が通う。時間のある人は南紀の勝景をたづね、鉛山、白濱、椿、勝浦等の温泉に浴し、潮の岬に立つて南海の怒濤を眺めるがよい。私は夜九時に御坊から那智丸にのつて翌朝四時すぎ勝浦についた。勝浦から五時半の汽車にのつて、那智驛に下車、自動車で那智の瀧、那智神社にまゐる。神社から驛までは、一里半。那智から新宮までは六哩三分。新宮から本宮までは十里あまり、熊野川をプロペラ船で のぼれば、六里で宮井につく。こゝで川は十津江北山まに分る。

こゝから三里十七町十津川を上れば本宮町、本宮から二

十五町山にはいれば、崇神天皇の御代から知られて居た有名な湯の峰温泉、本宮から自動車が幾度でも出る。

私は朝はやく湯の峰を立つて、本宮を出たのが七時半、プロペラ船は汽車位の早さで、二十分で三里十七町下つて宮井についた。

宮井から北山川へもプロペラ船がのぼる。九時に宮井を立つて、薄八町を見おはつた時は正午。この天下無比の景勝は和歌山、奈良、三重三縣の境にあつて、はなはだ氣持のいい旅館もある。

新宮から木本へは七里、自動車を走らすには、非常にいい。通る人は少く、道はよし、海と松原との景色は殊にすぐれて居る。木本には天下の奇勝鬼が城もある。これはおそらく、ほかにたぐひがなからう。

木本から尾鷲までは十一里、自動車が通う。道はなほだけわしく、自動車の向きをかへられるところもある。高い峠道、きわめてけわしい山や谷を、せまくて、やつと車を通す道の、自動車の上から見おろす氣持はすこく、おそろ

しい。峠の名は矢の子。いよくけわしくて自動車をはしらせがたい所に安全索道がある。それを通りすぎる時間十五分。荷物を送る索道と同じもので、客は吊り下げられた箱に入り、外からドアをしめて内からあげられぬ様にし、別に小さい窓が二つあつて客は頭を出して見られる。一箱に向ひあつて二人のる。谷や杉檜の密林を見おろす様にでき居る。熊野川のプロペラ船と矢の子峠の安全索道は珍しいものである。

尾鷲から伊勢柏崎へは十一里、自動車の便がある。柏崎から相可口に来て釜宮鐵道に乗りかへる。

木本および尾鷲から、鳥羽に出る船があるが、これはあてにはならぬこのことである。私は、はじめは、尾鷲から船で鳥羽、それから蒲郡に来て、東海道線に乗るつもりであつたが、それは不定であり、不便であり、時間も多かる。

旅行して見てありがたく思ふことは、今はどこにいつても汽車がなければ自動車があつて、もつとも僻遠の南海道

も右に記した様に、たやすく旅行のできる事である。

さき書いたプロペラ船といふのは、飛行機のプロペラを船にまじりつけたので、新宮の人の發明である。その仕方は船尾に高く、水平の軸を設け、それにまじりつけたプロペラは、空中にまはつて、空氣の抵抗によつて、船が進むので、熊野川にある船は長さ七間、三十人乗り位である。推

進機が水中にないから、浅い川を上り下りする船に便利だ。新宮で始められたが、今は天龍川、富士川その他にも、用ひられ、支那の人も新宮へ来て見て、今は支那でも用ひて居るそうである。これを發明した人は、その財産をすつてしまつたそうである。

## 衢の地藏尊

### 中道等

新薬師寺の秋は、又もなく閑朗なものであつた。美しく紅紺した紅葉の枝ミ、古い堂塔ミが雲のない大空の下に、静まりかへつてゐるばかりである。扉を閉じんとする若く瘦

せた僧の肩越しに、も一度小野筆作ミ云ふ地藏菩薩の顔を見直して、再び田の畦の細路を踏んだ。大極殿の址にはすぐに夕靄がほんのりミ湧いて居る。わくら葉の寢返りする音さへ手にこるやうに聞える閑寂な夕べである。

その夜自分は宿の二階で、奈良ミは遠く隔てた奥州の北